

IV-18

マトリョーシカモデルによる要所の景観表現について

岩手大学大学院 学生員 ○村上 亜矢子
岩手大学 正 員 安藤 昭
岩手大学 正 員 赤谷 隆一

1. はじめに

地区景観と要所の景観にマトリョーシカモデルを仮説立て、感覚統合理論による体系化を試みる。

2. 研究の目的

現在新都心として開発している盛岡駅西口地区に位置する盛岡駅西口広場の景観デザインを、感覚統合理論を適用して行う。

3. マトリョーシカモデル

本研究では、「都市景観に対して一部となっている地区景観や要所の景観もまた同じ景観モデルを適用できる」と仮定し、これをマトリョーシカモデルと呼ぶものとする（図-1）。

このマトリョーシカモデルの特色は、

「①地区景観・要所の景観は都市景観の一部をなす入れ子である」

「②都市景観・地区景観・要所の景観のいずれも同じモデルで解釈とデザインができる」

としている点である。

4. ケーススタディ

要所の景観デザイン

景観解釈モデルと景観デザインモデルを、実際に景観デザインを行うことによって説明していく（図-2）。ケーススタディの対象地区として、現在開発が行われている雫石川盛岡駅西口地区を取り上げる（写真-1）。

はじめに雫石川盛岡駅西口地区を景観解釈モデルに沿って解釈し、地区の現状・問題点を把握する。そして地区の全体像が把握できたら次は景観デザインモデルに沿って地区の風土イメージを抽出し、抽出されたイメージの内容を整理しながら地区全体の構造を考えていく。地区のマクロ構造の段階をデザインし終えたら、地区をいくつかの要所に分けそれぞれの使用目的にあったデザインテーマを要所ごとに決め、要所の景観デザインを行っていく。

(1) 雫石川盛岡駅西口地区の地区景観デザイン

景観解釈モデルによって得ることができたこの地区の現状・問題点の解釈から地区デザインの課題を以下に4つ挙げる。

<課題1>

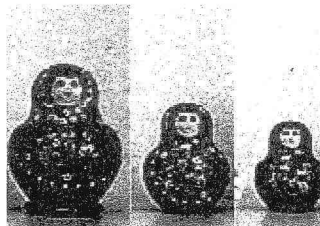
雫石川を有効利用することによって人々の関心を高める工夫と、寒くて積雪がある冬季期間でも人々が集まれる工夫をしなければならない。

<課題2>

三河川の合流点に近く砂礫層で地盤が軟らかいことから地盤を強化したまちづくりを考慮する。また道路のハード面は整ってきているが、公共交通や盛岡駅東口地区とのソフト面でのアクセス方法の整備はまだ不十分であるため、今後駅に隣接した地域の特性が最大限活かされる交通機関の計画が必要となってくる。

<課題3>

盛岡らしさを象徴する山並み・河川景観の保全を考えた建物の建設。



（ロシア人形のマトリョーシカ）

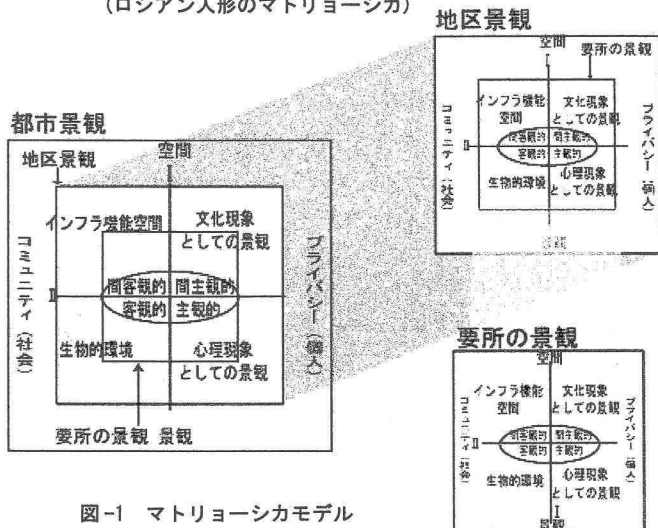


図-1 マトリョーシカモデル

<課題4>

全体的にプライバシーを考慮した景観や芸術的文化が考慮された空間はまだ少ない。そのため、住民との話し合いからさらにこの地区の魅力を引き出していく取り組みが必要である。

そしてこの課題を基に、この地区の景観デザインの目指すべき以下の4つの理念、

- (1) 地球環境の保全と創造
- (2) 盛岡らしさの発信
- (3) 社会基盤システムの構築
- (4) 豊かな地区社会の形成

を確立した。

そしてこの理念を基に、この地区のデザインの基本方針を「a 災害に強く持続可能な環境をデザインし、未来へつなぐ」、「b 地区の個性を活かしたまちづくり」、「c 交通ネットワークをダイナミックにつなぐ」、「d 人と人の絆を大切に、強いコミュニティを形成」とする。

(2) 盛岡駅西口広場の景観デザイン

新しく得られた地区景観のデザインテーマと計画設計を通して得られた場所のデザイン基調の解釈を通して本研究では要所の景観の一つ、盛岡駅西口広場をデザインしようとするものである。このデザインの結果は講演時報告する予定である(図-3)。

参考文献

- 1) 安藤昭, 赤谷隆一: 感覚統合理論による都市景観設計の体系化, 土木学会論文集, No. 653/IV-48, pp. 63-75, 2000
- 2) 水出佳奈, 安藤昭, : 感覚統合理論による都市景観設計の体系化に関する研究(そのII), 第3回観光まちづくり学会研究発表会, 3-1

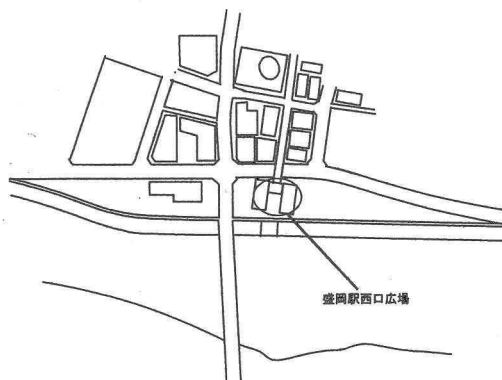
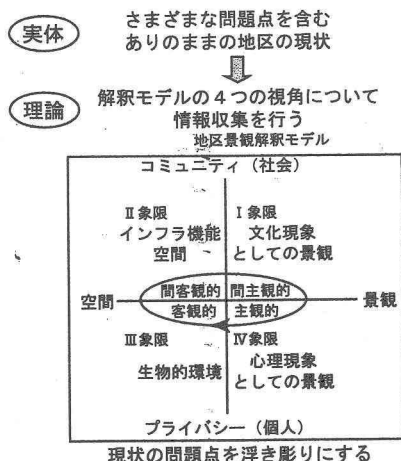


図-3 盛岡駅西口広場の位置



地区景観デザインモデル

脳半球モデル 都市景観の カテゴリ	左脳 『理性的』	右脳 『感性的』
マクロ構造 (地区景観)	2: 構造論的段階 (生理的レベル) 目標: 生活と生存 課題: 都市のフィジカル パターンと意識化 地区のデザインテーマ	1: 象徴論的段階 (生態学的レベル) 目標: 人と自然との共生 課題: 風土イメージの抽出
ミクロ構造 (要所の景観)	3: 機能論的段階 (社会的レベル) 目標: 個性豊かな地域社会の形成 課題: コミュニティ・ アクティビティプラン	4: 実体論的段階 (自己実現のレベル) 目標: 芸術作品としての都市 課題: 芸術文化の創造

地区及び要所の特性とデザインテーマを基調に、デザインモデルに従ってデザインする

新たな実体 新たな地区景観の創出

図-2 景観デザインの手順



写真-1 盛岡駅西口地区完成予想図
(マリオス展望室模型)